

Topic

マーケティング理念とフランチャイジング機会

——ゼミ論集の論題によせて——

吉村文雄

私の研究室に所属するゼミ員が卒業するまでに完成させる予定で共同での研究を自主的にすすめている。彼らが採用したテーマは、革新的流通システムをフランチャイジングに力点をおいて分析するというものであって、研究の方向は、フランチャイジングを急成長させた要因を計数的分析に基づいて析出し、あわせてフランチャイジングの形成機会を探求するところにある。このテーマの採用を決めるまでには、討論をかなり重ねたようである。しかし、きくところ、彼らがこのテーマを選んだ理由には、妥当性があり、その判断は適当であったように思う。というのは、わが国でも最近では、自動車やエレクトロニクス関係といった産業分野のものに限らず、デイリーの商品を扱う小売業のフランチャイジング化が急速に進行しているうえに、その多くは経営が安定しているからである。

ところで、このフランチャイズ・チェーンの真の父親といわれる「McDonald's」の創業者 Ray Kroc は、ハイスクールの中途退学者で病弱者でもあったが、52才で創業し1984年に亡くなるまでの間、つまり当時としてはもっとも短い期間で、億万長者となった人物といわれ、それは歴史上に例がないといわれている。あるデータによれば、このファスト・フード・チェーンの生みの親を育てたアメリカでは、その国民の多くは“大きいアメリカン・ドリーム”を実現させる最善の方法の一つが、中小企業の所有者・経営者になることであると信じており、実に国民の4割以上はそうなることが合衆国で金満家になるための一

つの最善の道であると考えているというのである。わが国では、中小企業によって支えられている産業の例として、伝統産業をあげることができる。例えば、友禅染、塗器、陶器等はその代表例である。この産業は、伝統的慣習にしたがう部面が生産過程に限らず、流通過程にも存在するという特徴をもつといわれる。そこで、彼らは、友禅染という商品の流通システムの革新可能性がどの程度あるかという課題も共同研究の一環に取り込むことにした。すでに、当地には、その流通経路の合理化を図り、売上げを大幅にのばしている企業が存在する。しかし、彼らの調査研究の一つの目的は、この伝統産業での過程の革新が、フランチャイジングの形成につながりうるのかという点を解明することであり、ひいては製作行程でのコスト削減、無駄の排除、適正な労使関係の確保等を志向するものであり、その対応の仕方は異なっている。金沢地域に継承されている友禅染は、現在では「加賀友禅」あるいは「加賀友禅風」（これは、制度的に認可された落款をもつ作家の作品とそうではない作品とを区別するためにもちいられ、後者に対する総称である。）と称されている。製作行程は、意匠設計からはじめて上加工に到って完結するが、各工程は、それぞれに独立している場合が多く、工程間の連絡には、その多くは問屋があたるという仕組みになっている。また、「加賀友禅」の名称を冠しうるのは、現在のところ落款を所持する200人強の作家に限られており、落款の授与においては、問屋の意向が軽視できぬほどの重みをもつと

いうのである。このように、伝統産業・加賀友禅の製作・流通過程において、問屋の役割は非常に大きい。そうであれば、とりわけ製作工程に及ぼす影響がみられるということであれば、問屋企業の社会的責任の問題が論点の一つとなるであろう。この業界の一つの特徴は、問屋と作家の結びつきが比較的強いという点である。このことは、メーカーの側の裁量に一定の制約が伴うということの意味することにもなる。こうした体制は、多品種少量生産の要請に対応するシステムをなして、消費者のニーズに答えている面があるといえるが、メーカー部門における人間関係(とりわけ、組織成員の垂直的關係)や販売部門における販売予測等の面において問題が生じる可能性はある。落款制度によって「加賀友禅」作家を選定し、一応はその身分を保障し、販売部門が人材の確保を図ろうとしても、身分の固定化に基づく制作活動の停滞化・転成(転落)が起これ

ば、さらに販売部門担当の販売予測や販売努力に不十分な要素があれば、高水準の不良商品在庫を発生させ、このことがコストの増加をもたらすことになる。友禅の着物が消費者の手にわたるときに高額商品となるのも、こうした余計な部分の発生が一因となっていることがある。この業界はやはり業界秩序の方に向いてはいくが、無駄を排除するというような経営合理化にはあまり積極的でないようである。

経営コンサルタントをかかえて、周到な出店計画と計数的手段によってシステム全体を管理する今日のフランチャイジング・システムは、企業家に志向する人々の願いをある程度かなえてくれそうである。性急にいえば、伝統産業にもフランチャイジング・システムあるいはその他の革新的システム導入の可能性が見えてくるようである。共同研究の成果を期待したい。

(金沢大学経済学部教授)

地域経済文献情報

- 青木 圭介 ポスト・フォードイズム論と地域
(経済科学通信 65 9p)
- 安積 紀雄 東京区部における冷蔵倉庫の立地展開と保管の地域的動向
(経済地理学年報 36-3 14p)
- 井黒 正隆 有識者アンケートにみる北陸地方の開発促進の方向
(北陸経済研究 [北陸経済研究所] 147 15p)
- 池田 亮二 巨大都市東京の考察
(都市問題 81-11 17p)
- 石川 雄一 通勤距離の変動からみた京阪神大都市圏における構造変容
(人文地理 42-4 25p)
- *井上純一 ほか5氏 東京
(青木書店 1990/11 270p)
- 渦原 実男 商店街の情報化戦略の調査研究
(地域研究所年報 [旭川大] 13 19p)

- 大西 隆 オフィス立地の新展開
(地域開発 313 9p)
- 奥川桜豊彦 地域活性化の取り組みに見る日米の比較考察
(立命館産業社会論集 26-2 14p)
- 笠松 誠一 繊維機器振興展を見て(ルポルタージュ)
(北陸経済研究 [北陸経済研究所] 149 6p)
- 菊地俊夫, モラン ニュージーランドのオー克兰ド都市圏における農業的土地利用の変化とその地域的性格
(地理学評論 63-11 25p)
- 岸本哲也 ほか 都市と公共デベロッパーの評価<特集>
(都市政策 61 101p)
- Kita Noboru Setting of Technopoleis and the Problems of Regional Linkages in Designated Areas of Japan
(政経論叢 [明大] 58-6 20p)